

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：34311

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00239

研究課題名（和文）小津安二郎直筆資料群の比較検討：蓼科日記、1930-60年代日誌との比較から

研究課題名（英文）Comparative Study of Ozu Yasujiro's Autograph Materials: Comparisons with Tateshina Nikki and Diaries from 1930s-1960s

研究代表者

宮本 明子 (MIYAMOTO, Akiko)

同志社女子大学・表象文化学部・准教授

研究者番号：60633419

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,400,000円

研究成果の概要（和文）：第一に、『早春』の台本と同時代の資料を比較検討し、作家里見淳が映画雑誌『シナリオ』で『早春』の台本への関与を明言していたことや、里見が日本映画の台詞をどのようにとらえていたのかを突き止めた。第二に、『麦秋』台本の一部が掲載された高等学校国語教科書の分析を通じて、小津の1950年代における受容の様相を明らかにした。第三に、脚本家野田高梧の1963年の手帳に小津の記録が残されていたことを発見し翻刻を行った。同手帳から、小津の次回作への意欲や入院時の様相を明らかにした。以上のように、小津が巨匠と評価される過程を、資料の精査を通じて示すことができた。今後、他の作品にも対象を広げての分析が課題となる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

新資料を含む一次資料を通じて映画成立過程を実証する。既存の小津像や成立過程を再考し、後続する研究に資する。

研究成果の概要（英文）： First, by comparing the script of Early Spring with contemporaneous materials, it was determined that writer Satomi Ton had clearly stated his involvement in the script of Early Spring in the film magazine Scenario and how Satomi viewed the dialog in Japanese films. Second, through an analysis of high school Japanese language textbooks containing portions of the script of Early Summer, aspects of Ozu's reception in the 1950s were clarified. Third, Ozu's records that survived in the 1963 notebook of screenwriter Noda Kogo were discovered and reprinted. The notebook revealed Ozu's motivation for his next film and his hospitalization state.

The process by which Ozu was recognized as a maestro was demonstrated through a close examination of the materials. In the future, further analysis will be required to broaden the scope to include other works.

研究分野：表象文化論

キーワード：一次資料 映画史 小津安二郎 野田高梧 直筆 台本 手帳 テキスト

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様式 C-19、F-19-1(共通)

1. 研究開始当初の背景

小津安二郎の映画制作過程を調査するために、小津の一次資料群を調査してきた。主な対象は、小津の直筆の入る資料群である。一方、小津の直筆が入らない資料にも、映画制作時の過程を伝える重要な記録が残されている。これらを照合し、小津の映画制作史を総合的に検討したいと考えた。

これまでの映画研究において、小津安二郎の一次資料を綿密に調査した研究は限られている。一般書では貴田庄「シンガポールの小津と『文学覚書』」(『文学界』2005年2月号)や田中眞澄『小津ありき』(2013年)が未公開資料の概要をまとめているものの、これらをふまえた更なる検証と、同時代映画史の文脈への位置づけが必要となっていた。その第一歩として、宮本も編纂と調査、取材に関わった『小津安二郎 大全』(2019年、朝日新聞出版)では、小津幼少期の資料も含め、小津とその映画を総合的に検討するための資料を可能な限り対象としながら、読み解きを行なった。さらに、2020年9月には富士ゼロックス(京都)が、小津も制作過程や日常の記録を綴っている日記、『蓼科日記』全18巻の複製を完成した。こうして小津をめぐる資料の状況が着実に変化する中で、これまでの調査実績や各方面から得た教示を踏まえ、本研究を達成したいと考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、1920-60年代に制作された草稿、加筆修正入台本等、小津の一次資料群に関して、次の3点を明らかにすることである。

小津が必ずしも残していない記録

「その他の資料」との比較から補完できる事柄

小津映画研究、ひいては日本映画研究における一次資料の意義

これまでに調査を終えた小津の直筆資料群を、小津の直筆は入らないものの、小津が制作や決定に関わっていた「その他の資料」と比較検討することに主眼がある。「その他の資料」には小津が残していない記録があり、映画制作過程を読み解く手がかりが認められるためだ。照合を経て小津安二郎の映画制作過程を明らかにするとともに、一次資料の保存・活用の方法を考察する。

3. 研究の方法

上に掲げた3点を、次の通り実践した。

小津が必ずしも残していない記録：【令和3年度】

これまでの調査において、現存する小津安二郎直筆資料群のおよそ8割の情報を特定している。残る2割を精査し、小津が記録していない時期・範囲を特定した。

「その他の資料」との比較から補完できる事柄：【令和3・4年度】

小津と脚本を執筆した野田高梧の手帳(新・雲呼荘 野田高梧記念 蓼科シナリオ研究所所蔵)と

【1 研究目的、研究方法など(つづき)】

小津の日記とを比較検討した。

小津映画研究、ひいては日本映画研究における一次資料の意義：【令和5年度】

上記 ・ をふまえて、小津安二郎の一次資料群の意義を明らかにした。同時代映画産業に当該資料を位置づけるため、国立国会図書館、国立映画アーカイブ、早稲田大学演劇博物館、松竹大谷図書館ほか各所で文献調査を行った。

4. 研究成果

上記 から の実践を通じて、小津安二郎の各映画制作時や関連する事項の背景を明らかにした。

たとえば、『麦秋』(1951年)である。1950年代に実際に使用されていた、大修館書店の高等学校国語教科書にシナリオが一部改変され掲載された経緯、および掲載の事例を明らかにした。当時、映画が中等、高等学校の国語教育に積極的に導入されていたこと、小津の映画にしばしば登場する「空のショット」に相当する場面の効果を尋ねる設問が設けられていたことなどを検討した。

『早春』(1956年)では、野田の手帳や修正入台本の検討を通じて、『早春』台本に修正を入れたとみられる作家・里見淳の足跡を具体的にたどることができた。里見が映画雑誌『シナリオ』に台本への関与を明言していたこと、さらに、里見が日本映画の台詞をどのようにとらえていたのかを突き止めた。

最終年度には、1963年の野田高梧の手帳に小津の病床時の記録を発見し、翻刻した。病床にありながらも、小津は次回作に意欲を見せていたのである。新・雲呼荘 野田高梧記念 蓼科シナリオ研究所理事山内美智子氏の下承を得て、山内氏と内容を共有し、内容を公開した。この内容が読売新聞、稲盛財団ウェブサイトなどで大きく報じられた。さらに、国外では2023年に小津の特別上映が開催されたアメリカ・アカデミー映画博物館で研究の成果を紹介し、大きな反響を得た。

以上の成果を学術論文やポスター発表・口頭発表として報告するだけでなく、一般に報告することにも努めた。会場内外での関係者、監督ゆかりの方々との交流を通じて、新たな知見も得られた。さらに、2022年3月には、小津とその映画を知る上で欠かせない『小津安二郎・人と仕事』を、50年ぶりに改訂新版として刊行を果たした(松浦莞二との共編、電子版「改訂新版 小津安二郎・人と仕事 上/下」)。関係各位への打診、連絡を行う過程は、本研究を進める上で常に念頭にあった「資料の保存・活用の方法」を考える実践でもあった。

以上の通り、全期間を通じて資料所蔵先ならびに関係者の協力を得ながら、研究を順調に進めることができた。ただし、本研究において重点的に検討を重ねられたのは、小津の一次資料群の中でも比較的資料の多い、『麦秋』や『早春』制作時の記録であった。他の作品ではどうか、引き続き綿密な調査を続けてゆくことが課題となる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 宮本 明子	4. 巻 819(56-5)
2. 論文標題 山田太一と松竹大船撮影所、あるいは小津安二郎との距離	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 ユリイカ	6. 最初と最後の頁 225-232
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宮本明子	4. 巻 73
2. 論文標題 里見淳による映画論の実践――『早春』から「會話」まで	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 同志社女子大学学術研究年報	6. 最初と最後の頁 75-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15020/00002339	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 宮本明子	4. 巻 71(2)
2. 論文標題 『麦秋』と国語教科書：一九五〇年代過渡期の視点をめぐって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本文学	6. 最初と最後の頁 23-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 周防正行（述）、宮本 明子、松浦 莞二	4. 巻 -
2. 論文標題 周防正行インタビュー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 小津安二郎学会ウェブサイト https://www.ozuyasujiro.jp/015	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 出川三男(述)、松浦 莞二、宮本 明子	4. 巻 -
2. 論文標題 出川三男が語る『お早よう』の美術	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 小津安二郎学会ウェブサイト https://www.ozuyasujiro.jp/014	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山本富士子(述)、松浦莞二、宮本明子	4. 巻 -
2. 論文標題 山本富士子 インタビュー	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 小津安二郎学会ウェブサイト https://www.ozuyasujiro.jp/012	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 宮本明子	4. 巻 -
2. 論文標題 野田高梧『晩春』執筆日記 翻刻後記	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 新・雲呼荘 野田高梧記念 蓼科シナリオ研究所 https://www.noda-tateshina.jp	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 浦沢直樹(述)、松浦莞二、宮本明子	4. 巻 -
2. 論文標題 浦沢直樹 インタビュー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 小津安二郎学会ウェブサイト https://www.ozuyasujiro.jp/009	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 惣領冬実(述)、松浦莞二、宮本明子	4. 巻 -
2. 論文標題 惣領冬実 インタビュー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 小津安二郎学会ウェブサイト https://www.ozuyasujiro.jp/008	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計16件(うち招待講演 7件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 宮本明子
2. 発表標題 映画に吹く里見淳と鎌倉の風
3. 学会等名 鎌倉市川喜多映画記念館「追悼・山内静夫 松竹大船撮影所物語」(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宮本明子
2. 発表標題 映画と国語教科書:小津安二郎監督『麦秋』を事例に
3. 学会等名 第68回世織塾(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 紀本直美、宮本明子
2. 発表標題 小津安二郎と俳句を楽しむ 第1回「秋雨にほどよくさめし番茶かな」
3. 学会等名 よみうりカルチャー八王子
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宮本明子
2. 発表標題 大人の映画の楽しみ方
3. 学会等名 同志社女子大学ジェームズ会講演会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 紀本直美、宮本明子
2. 発表標題 小津安二郎と俳句を楽しむ 第2回「たてきりし硝子障子や鮫鱈鍋」
3. 学会等名 よみつりカルチャー八王子
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小津 亜紀子、宮本明子
2. 発表標題 小津安二郎松阪記念館映画上映会・トークイベント
3. 学会等名 小津安二郎松阪記念館映画上映会・トークイベント（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 紀本直美、宮本明子
2. 発表標題 小津安二郎と俳句を楽しむ 第3回「一人身の心安さよ年の暮」
3. 学会等名 よみつりカルチャー八王子
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 紀本直美、宮本明子
2. 発表標題 小津安二郎と俳句を楽しむ 第4回「雪の日のあした淋しき舞扇」
3. 学会等名 よみつりカルチャー八王子
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 宮本明子
2. 発表標題 小津安二郎という新しさ：飛行機、海、駅のホームの描写をめぐって
3. 学会等名 専修大学（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 紀本直美、宮本明子
2. 発表標題 小津安二郎と俳句を楽しむ 第5回「古き障子海近き宿の春日かな」
3. 学会等名 よみつりカルチャー八王子
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 紀本直美、宮本明子
2. 発表標題 おとなの俳句教室
3. 学会等名 second-life.school
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 紀本直美、宮本明子
2. 発表標題 「春」のお題で楽しむ！おとなの俳句教室
3. 学会等名 second-life.school
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 紀本直美、宮本明子
2. 発表標題 小津安二郎と俳句を楽しむ 第6回「春の夜は五人囃子のそれぞれに」
3. 学会等名 よみうりカルチャー八王子
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 松浦莞二、宮本明子
2. 発表標題 今知りたい！小津安二郎
3. 学会等名 毎日文化センター（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宮本明子
2. 発表標題 台本からたどる小津安二郎
3. 学会等名 兵庫県猪名川町立中央公民館講座「映画の楽しみ」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 宮本明子
2. 発表標題 『麦秋』と国語教科書：1950年代過渡期の視点をめぐって
3. 学会等名 日本文学協会第40回研究発表大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 宮本明子	4. 発行年 2021年
2. 出版社 龜鳴屋	5. 総ページ数 208
3. 書名 台本からたどる小津安二郎	

1. 著者名 小津安二郎・人と仕事刊行会（著）、松浦莞二、宮本明子（共編）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 小津安二郎学会	5. 総ページ数 -
3. 書名 改訂新版 小津安二郎・人と仕事 上/下	

〔産業財産権〕

〔その他〕

宮田 文久=構成、松浦 莞二・宮本 明子=監修「実は極端！ 小津ワールド読解講座」、『週刊文春CINEMA』2023秋号（文春ムック）46-48頁、2023年9月。
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------